

走水包丁塚小史

昭和46年横須賀の調理師より包丁塚を建立してはとの提案があった。

当時（社）神奈川県調理師会では野並会長はじめ各役員も包丁塚建立は意義ある事業と認めていたが、山積みする諸問題もあり、時期尚早として見送られていたが、事業部の研究テーマとして検討を進めていた。翌昭和47年1月に至り神奈川県並びに横須賀市当局の全面的協力と、日本武尊と弟橘媛命を祭神とした因縁ある走水神社の建立地提供と共に地元調理師協会の応援など建立の気運が高まってきた。同年4月12日役員会を開催し野並会長が発起人代表、畠山政吉氏が実行委員長、山本耕二氏が事務局長となり県下業界挙げて実行委員が選ばれ、提案後1年にして包丁塚建立の第1歩を踏み出すこととなった。基金は自発的、善意の募金に依ることとなつたが、この建立が話題になると、篤志家の寄付がありこれが刺激になり募金活動も活発になり関係方面の支援や調理師各位の貴重な浄財で予想以上の実を結び、予定どおり昭和47年11月6日県知事、横須賀市長、発起人、業界多數の来賓を迎えて走水神社境内において厳肅に包丁塚の除幕式が挙行された。翌48年1月25日発起人会はその責任を果たし解散総会を開催して、有終の美を飾った。席上「包丁塚保存会」の案が提出され満場一致で可決、今後の維持、運営は保存会が一切行うこととなり、初代会長に野並豊氏現崎陽軒会長が推薦された。その後毎年供養祭を開催し5年に1度大祭を挙行して、古式豊かな包丁儀式が行われ意義のある式典である。今日包丁塚も建立してから48年当時を懐古し感慨深いものである。包丁塚は未来永劫三浦半島景勝の地の神域に調理関係者の善意を宿して輝きつづけることとおもわれます。